

そよかぜだより

第88号
発行 2009. 9. 20
毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

連絡先

ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

政権交代 自立支援法廃止は確実

民主党の方針 新法は一から作り上げる
新法制定の時期は未定

民主、社民、国民新の3党は、連立政権樹立で合意しましたが、合意文章には障害者自立支援法の廃止が明記されました。自立支援法に代わる新法（障がい者総合福祉法Ⅱ（仮称）の制定について民主党は、障害者の意見を反映するための協議機関を内閣に新設する構想を出しています。

障害者福祉を巡っては、民主党は今年4月に、内閣に障がい者制度改革推進本部を新設するための法案を参議院に提出しており、政権発足後、同本部の設置を急ぐ考えです。新しい本部には20人以内の委員会を設け、過半数を障害者とし、事務局は内閣に置き

ます。
これに関連して、民主党の

支給内容を地域ごとの委員会で決定し、市町村に指示する。
○事業者の経営基盤を強化するため報酬の日額方式は廃止し、月額方式とする。

○一般就労を促進するとともに、一般就労以外の就労的事業（授産施設など）を整理する。現行の「自立訓練」「就

労移行支援」「就労継続支援」のうち就労支援にかかわる事業を統合、簡素化する。

ひばり園は、もうすぐ完成する新しい施設の中で、自立支援法に基づく就労移行支援事業と就労継続支援事業を行

う計画です。政権交代によって、この二つの事業が廃止され新法に基づく新事業が開始

されるのはまだ当分先のことになるでしょうから、それまでの間はこれらの事業を実施

して行くことになりました。したがって当初の計画がむだになることはありません。しかし

ご協力ありがとうございました。 8月の募金 30,165円
(順不同) 平成21年4月～8月の合計 157,586円

宮本 佐一 様	藤野 和子 様	村野 理子 様
宮本 文江 様	加部 妙子 様	田中 明子 様
帯刀 進 様	北野 浩美 様	エイ・アイ 様
帯刀 幸子 様	大野 元雄 様	田村 由親子 様
とまと美容室 様	森田 勝 様	田村 千佳 様
山下 暉枝 様	濱野 岬 様	山田 隆章 様
天満 喜代子 様	山崎 六雄 様	袴田 実 様
清水 賢 様	国本 昭治 様	山影 幸子 様
清水 知子 様	大内 たま子 様	平岡 知子 様
下田 コウ 様	田中 稔 様	平野 嘉子 様
阿部 郁子 様	小沢 達子 様	大野 素子 様
斉藤 忠 様	土屋 三枝子 様	永岡 智恵子 様
榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	長谷川 キヌ子 様
松岡 竹子 様	尾又 恭子 様	角野 克子 様
角野 満壽子 様	渡辺 四郎 様	関村 理 様
吉野 満里子 様	川崎 利男 様	関村 英希 様
桜沢 喜作 様	ハーサロソカワノ 様	本間 正彦 様
アーバンベンディックス様	匿名様(2,800円)	

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん8月の売上げ
667,680円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さい。ありがとうございます。

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール
(ボロは扱っていません)

8月は23,940tでした。金額は308,008円となりました。
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

10月は第3日曜日18日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

発達障害者が自分のことを解説しました

感覚をまとめるのがおそいのです

「ゆつくりていねいにつながりたい」

今回は一冊の本について紹介します。知的障害のない自閉症の人が自分のことを書いたものです。

著者は綾屋紗月（あやや・さつき）さんというアスペルガー症候群で35歳、2児の母です。「発達障害者当事者研究」という硬い題名ですが、内容は自閉症の人が考えていることを他人にもわかるようにやさしく解説したものです。著者がもつとも強調して訴えている部分を紹介します。

「おなかやすい」と、これは私の数ある「わかりにくい感覚」のひとつである。我が子たちを見てみると、いともたやすく「あ、おなかやすいな。なんか食べたい」と叫ぶ。彼らは身体が訴える感覚を、一瞬にして「これは空腹の感覚である」と判断し、さらに「食べたい」というひとつの意志をまとめあげ「人に訴える」という行動を選んでいる。

指大からドラ焼きぐらいの大きさで胃がえぐられる感覚になったとき、ようやく「私はおなかやすい状態なのだ」とまとめることができる。気が付いたら「そういえば今日は朝から何も食べてない」ということもよくある。

私は、大量の身体感覚を絞り込み、あるひとつの判断にまとめあげるまでの作業が人よりゆつくりである。しかし私には、人びとがこんなにたくさんあるはずの身体感覚を容易に絞込み、ひとつにまとめあげていることのほうが不思議に思われる。

さて「おなかやすい」という感覚がようやくまとまると、「ではどうする」と、その後の行動についても選択肢が乱立する。上司に「昼食を取りに行ってきます」という行動ひとつとっても「どんな声色で」「どんなスピードで」「どんな表情で」「どんなタイミングで」「どんな身振りを付けて」など、細かい所作のレベルまで数限りなく選択肢が生じる。これはレストランでメニューを選ぶときも同じである。さんさん迷ったあ

げく「ダメだ、昼休みが終わってしまう。今日の昼食はもう食べられない」と途方に暮れたり、情報処理がいつぱいで追いつかず頭の中が「ギャー！助けて！」とパニックになったりといった事態が発生するのである。また「おなかいいばい」という感覚もまとめあがりにくい「皿のものがなくなったら、食べるのをやめる」で決めるしかない。一連の流れが成功した場合、私は毎回その通りに忠実に動くようにする。「この感覚を得たときにはこれをする」とパターン化することで、行動をいくらか早くすることができると、それで安心できる日常生活を送ろうとする。

ただ、一度パターン化してしまつたものについては、その通りにいかない場合たいへん動揺し、混乱する。たとえば「トイレの後には手を洗って拭く」という習慣は私にとつて迷うことなく自動化された（行動のまとめあげパターン）になっている。しかし「いつもの場所にタオルがない」ということが起きると途端に「手を洗うかどうか。」

手を洗わないなら衛生的に大丈夫だろうか。手を洗うならタオルを使うかどうかどうしようか。タオルを使うなら換えのタオルはどこにあるのだろうか。タオルを使わないのなら濡れた手はどう始末しようか……といった具合に、決めなければならぬ選択肢が一気にたくさん立ち上がるのである。このように「いつもと違う」という変化は、ささいと思えるようなことでも大問題に感じられる。

以上、綾屋さんの文章を読んですぐ思い当たることがいくつもあります。重い知的障害を持った自閉症の人が、いつもと同じパターンにこだわって、無理に違う行動をさせるとパニックを起こすことがよくありますが、その人は知的障害のために言葉はありませんが、頭の中では綾屋さんと同じことを思っているのでしょうか。

また、つくしの家の利用者の中に、食事のとき、苦しくて吐きそうになつても目の前の料理がなくなるまで食事を止めない人もいます。なぜそ

んなことをするのか不思議に思いますが、その人も頭の中には綾屋さんと同じ思考経路を持っているのでしょうか。

アスペルガーで前にひばり園に通所していた人が、その後、郵便局に就職して、一年ぶりにたずねて来たことがありました。「仕事にも慣れて順調にやっています」というので「ではもう、半日勤務は卒業してフルタイム勤務でしよう」と聞いたら、「いやー、とんでもない、半日が精一杯です」と言いました。それを聞いて私は、「この人は丈夫な体を持っているのだから、その気になればフルタイムもできるはずだが」と少し不審に思ったことがありました。この人も、何の問題もなく順調に仕事をしているように見えても、実は綾屋さんと同じように頭の中では思考経路を総動員して、私たちが想像できないような重労働をしているのでしょうか。だから「半日が精一杯」なのでしょう。自閉症という分かりにくい障害も、当事者からの説明が適切な支援のあり方を教えてください。